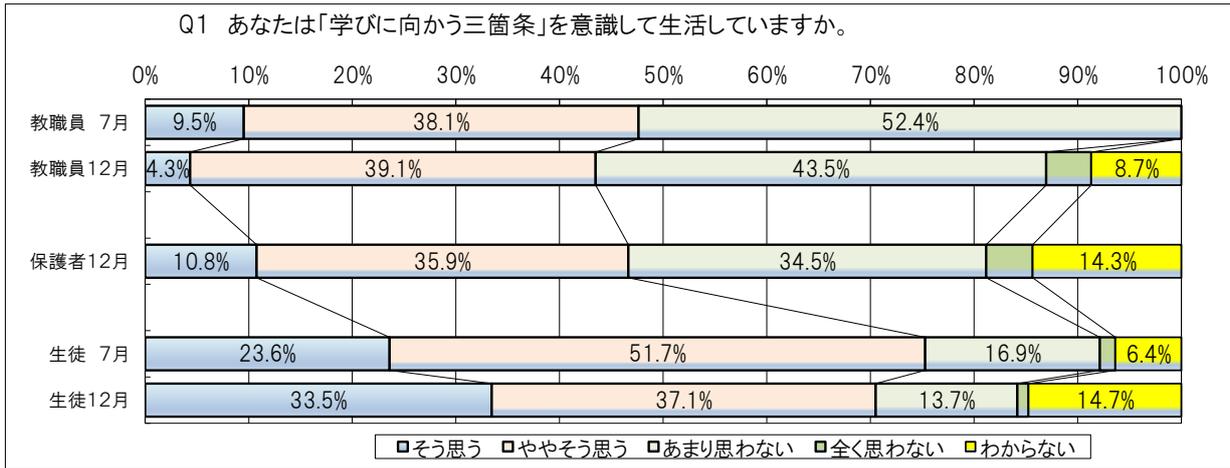
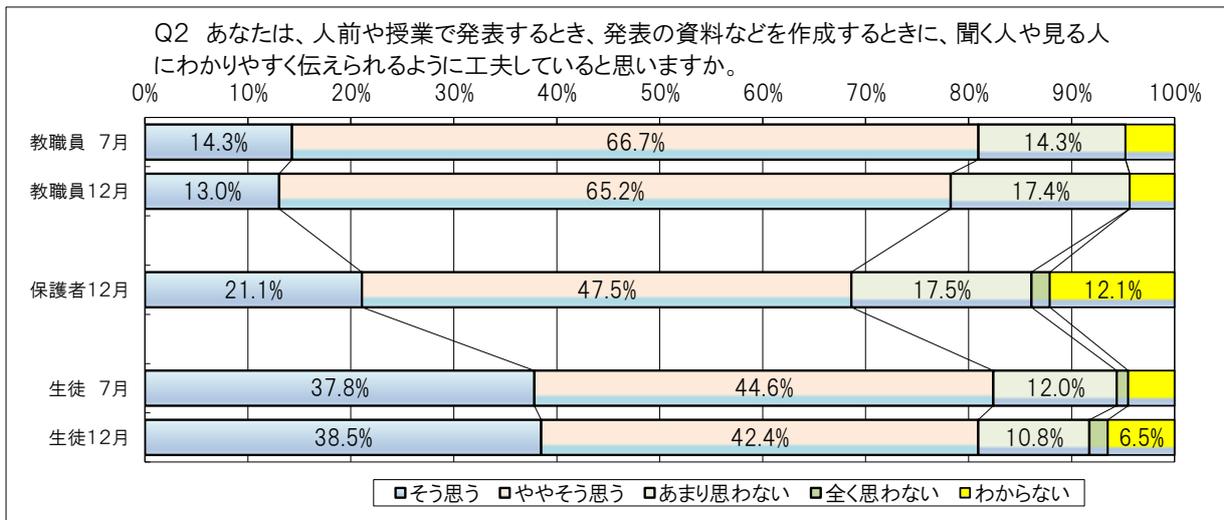


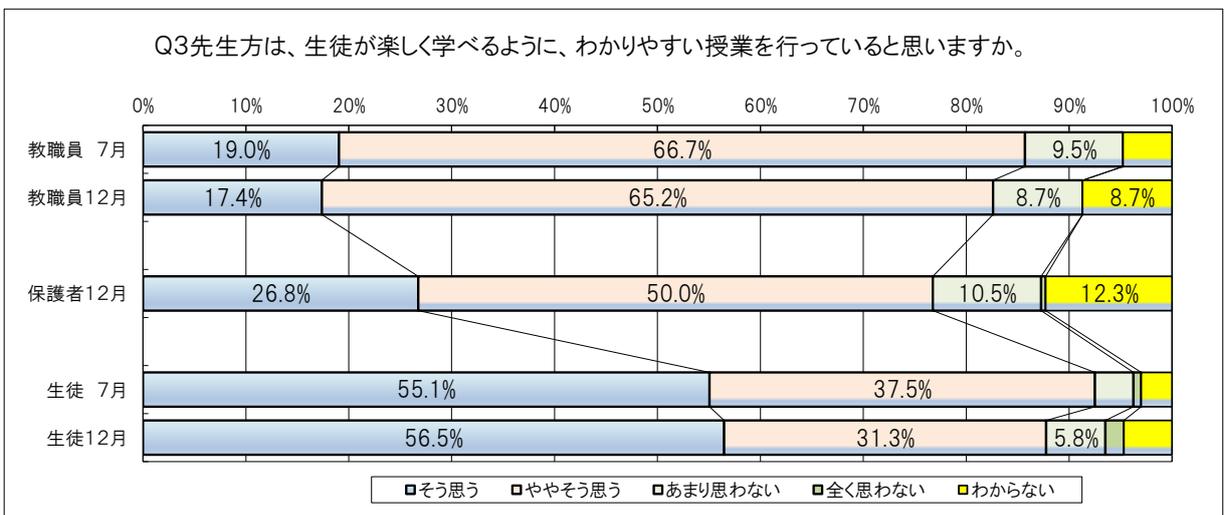
令和5年度 12月学校評価(7月との比較) 生徒・保護者・教職員



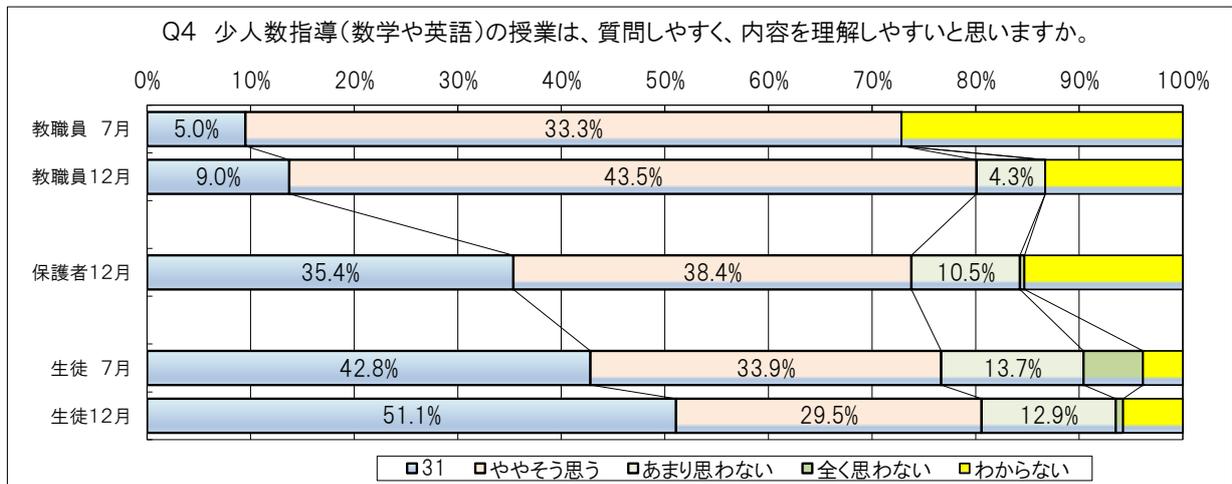
毎日の授業だけでなくふだんの生活から、話している相手の方を向きながら話を聴くなど「学びに向かう三箇条」が意識できるような声をかけています。
 時間や授業準備などの学習規律については、引き続き教師が率先して時間を守る姿を見せることで、生徒の意識を高めるようにしていきます。



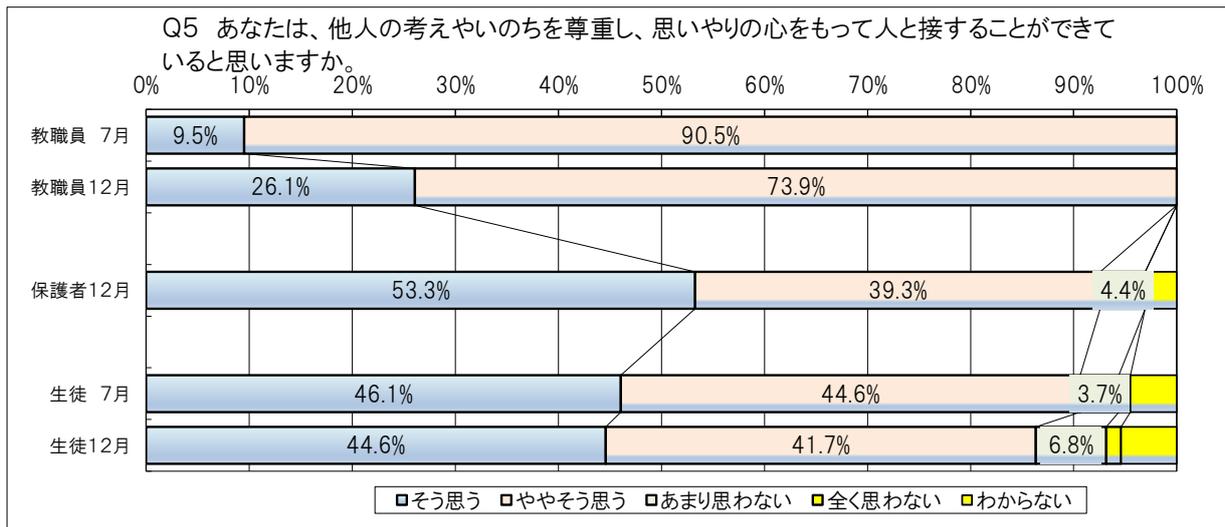
12月の調査でも8割を超える生徒が、聞く人にわかりやすく伝えることを意識して発表などを行っています。資料のデータや画像などをよりよいものにしたたり、資料にない細かなことを補足したりするなど、更にわかりやすく伝えられるようにアドバイスをしていきます。



12月の調査でも9割近い生徒が、楽しく学べるわかりやすい授業が行われていると回答しています。今後も、わかるようになった、できるようになったと、生徒が自分自身の成長を感じられるような授業を旨として研修を積み重ねていきます。

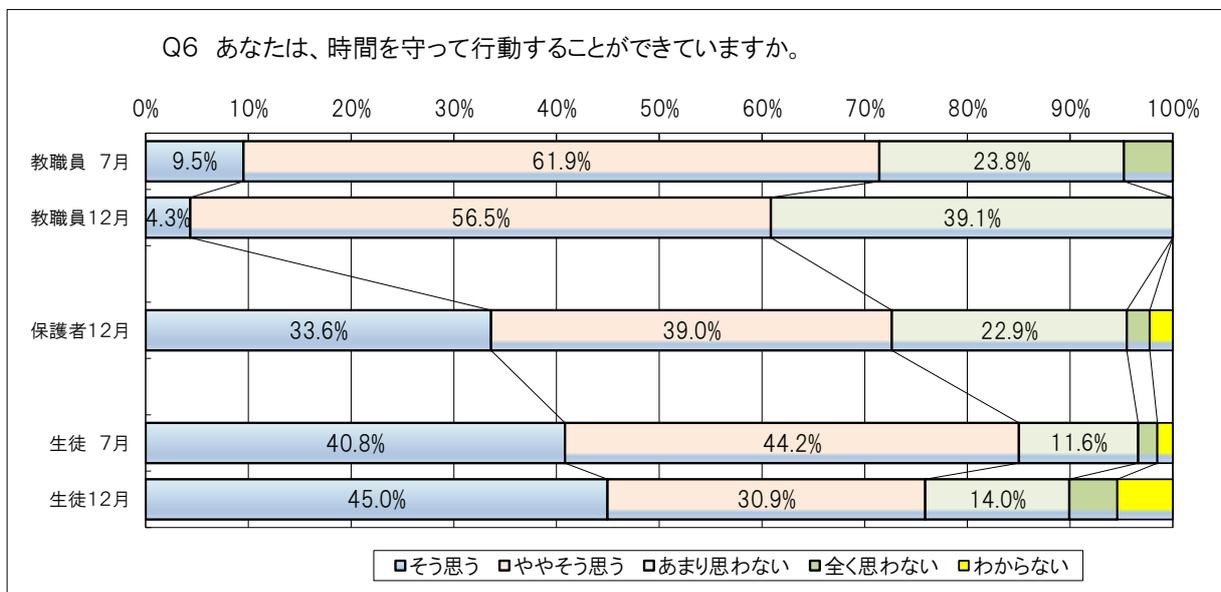


生徒の多くが、質問しやすい、理解しやすいと回答しており、少人数指導が効果をあげていることがわかります。今後も、目的別コース選択制など生徒のニーズや実態に合わせた授業を行っていきます。



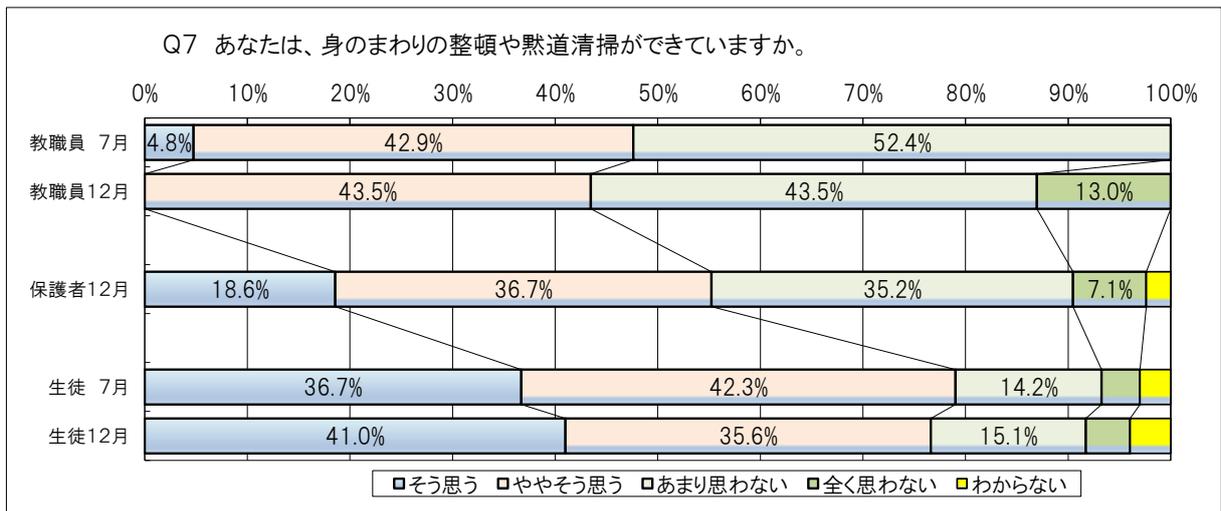
多くの生徒は、思いやりの心をもって人と接することができます。しかし、7月の調査と同様に「思わない」と感じている生徒の割合が増加しています。

教職員は道徳の授業や学校生活のさまざまな場面で、思いやりの心をもてるように教育活動を行うとともに、今まで以上にアンテナを高くして生徒を見守っていきます。

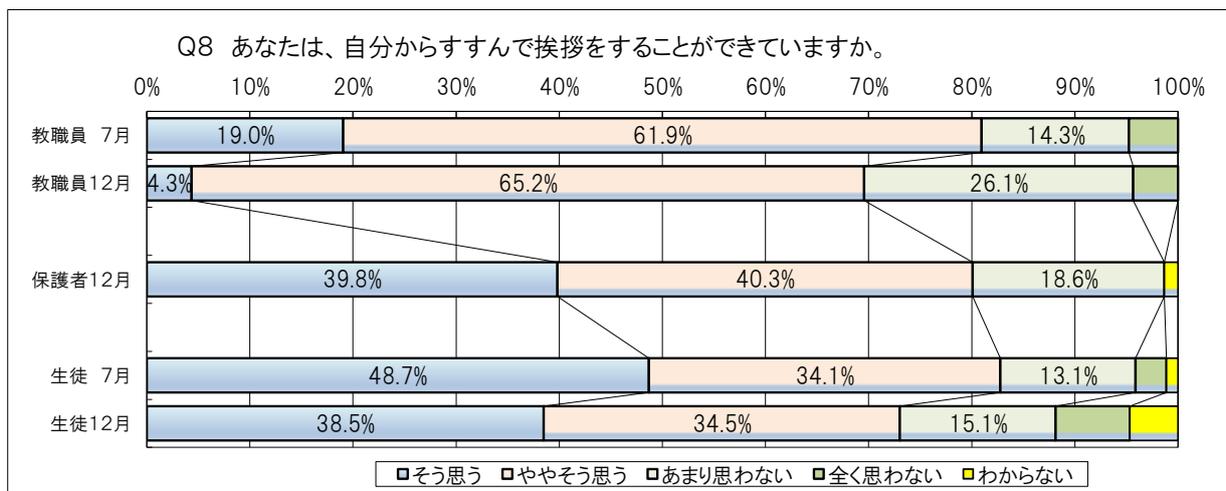


7月と比較すると、時間を守って行動できる生徒数が増加し、成長を感じます。授業の際に「時間だよ」と声をかける生徒もいます。その反面できていない生徒も増加しており、その印象から教師の評価が下がっていると考えられます。

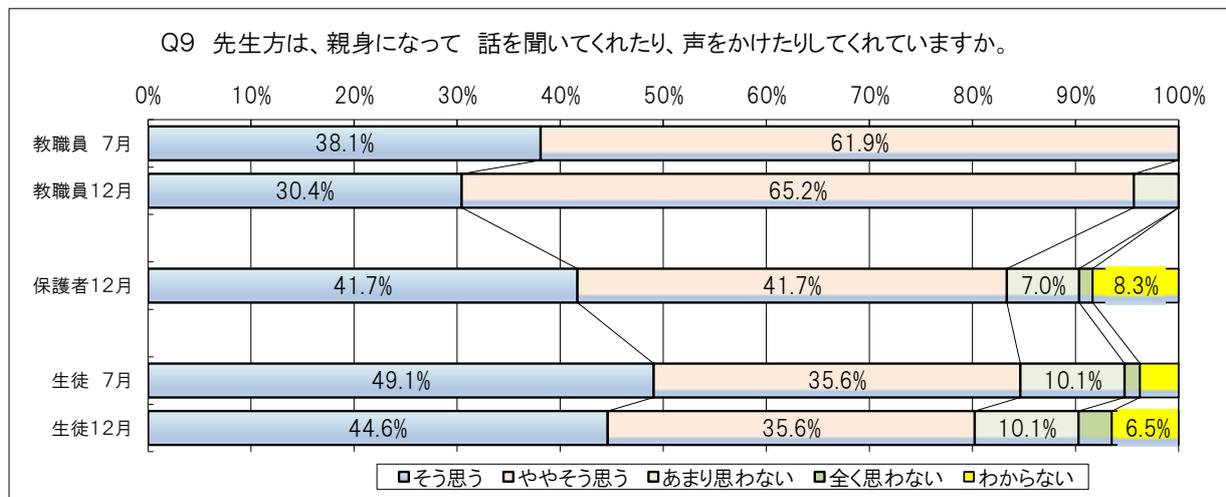
時間を守ることは、今後大人になってからも必要な力です。時間の意識をもって主体的に行動できるようにねばり強く支援していきます。



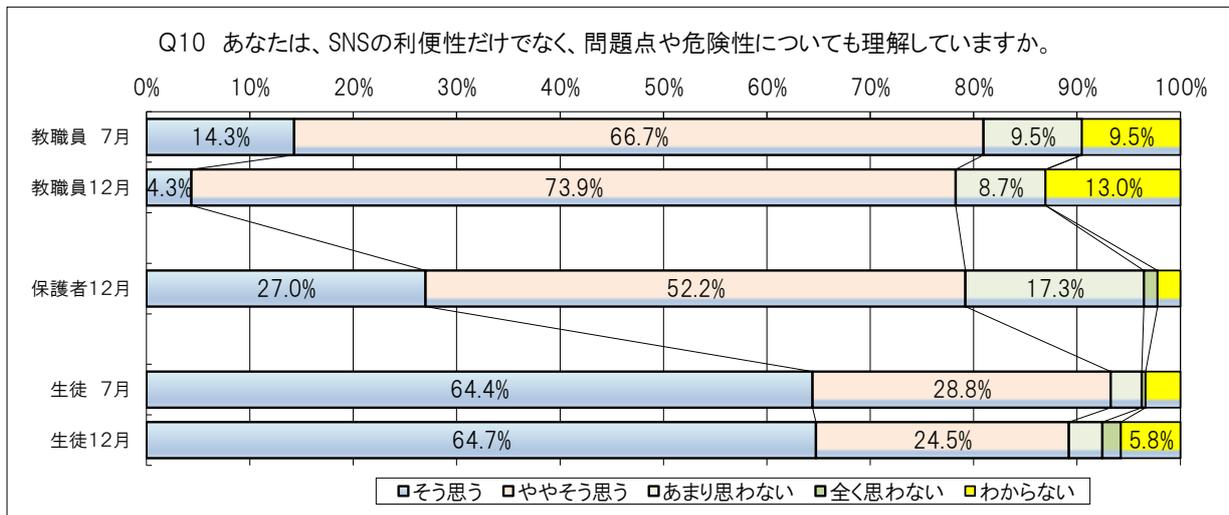
生徒たちの意識が高まっていることがわかります。本校は掃除を週3回実施しています。なぜ黙って掃除をする必要があるのか、というねらいを今一度考えていく必要があります。短い時間の中で集中して掃除をすることの意義を確認しながら、自分たちの環境を自分たちで整え気持ちよく生活できる力を育てていきます。



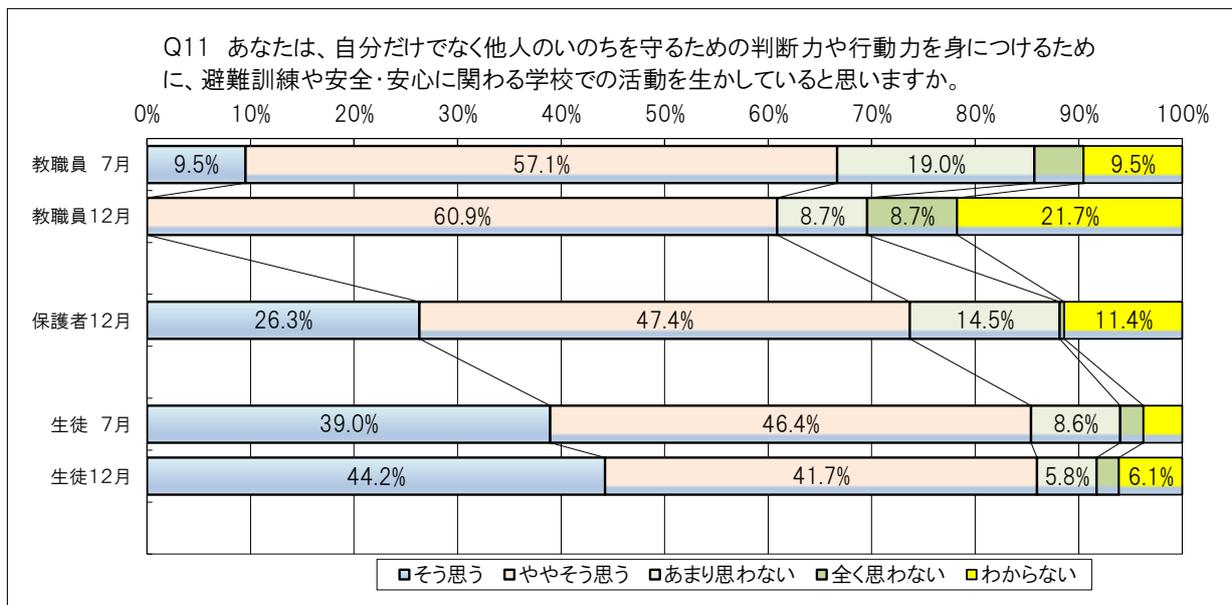
生徒会主体で挨拶運動を行う姿がありました。生徒たち自身で挨拶をしようと互いに働きかけていくことはよい傾向にあります。そして、これまで以上に教師も生徒たちと共にすすんで挨拶をしていきます。生徒も教師と共に温かい挨拶の飛び交う学校づくりをすすめていきます。



教職員と生徒の評価が下がっていることが気になります。生徒たちが話がしやすいように、日頃から信頼関係づくりをしていく必要があります。LTノートへの朱書き、面談週間での対話はもちろん、日頃かなにげない会話を大切にしながら、相談しやすい温かい関係づくりをめざしていきます。

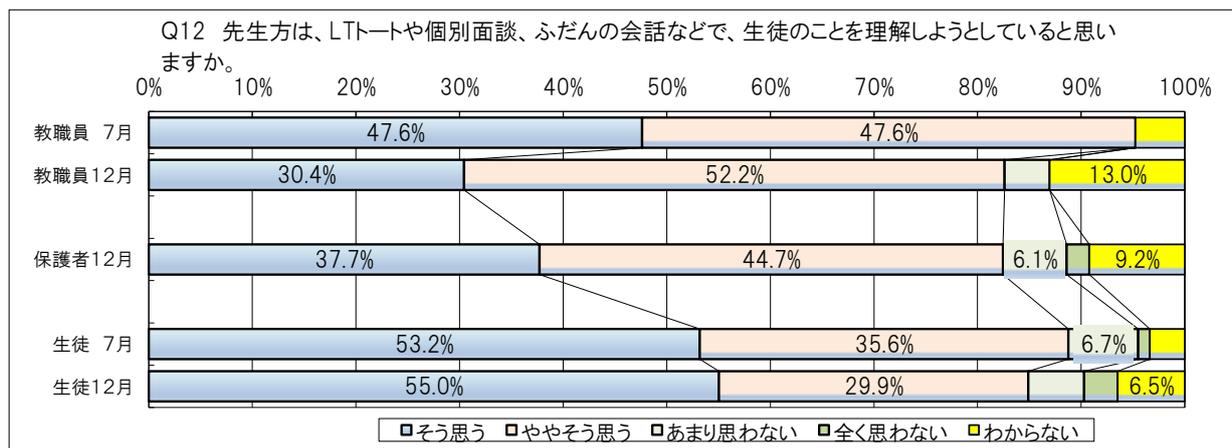


生徒自身は問題点や危険性を理解しているという結果が出ています。昨今、実社会におけるSNSによるトラブルが多発しています。生徒がトラブルを回避する方法を身につけるためにも、時代の流れや傾向を捉え、情報モラルを学ぶ機会を増やしていきたいと考えます。

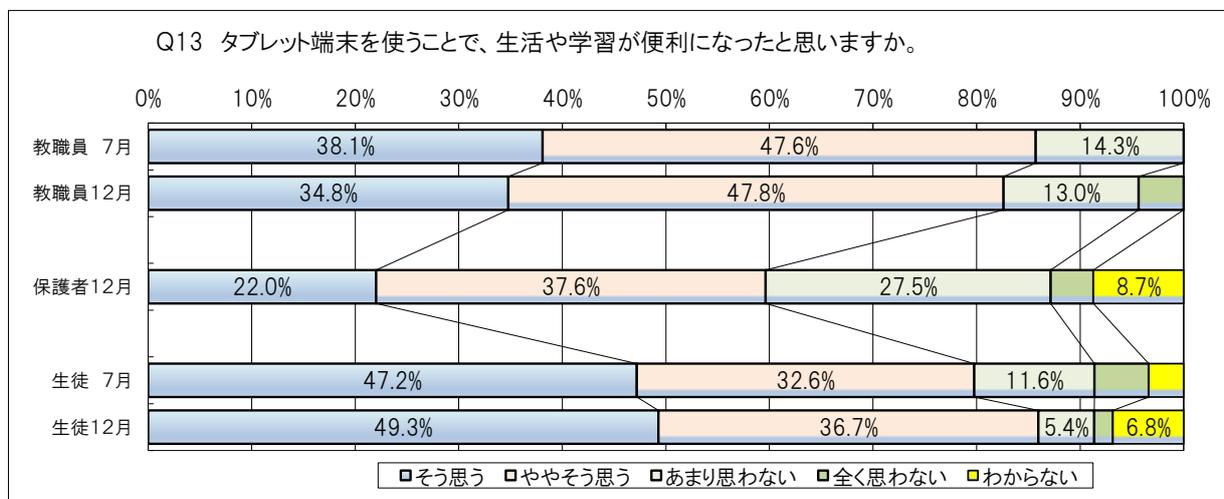


9月の避難訓練は、教室での安全指導を行ったことから、教員の評価は下がったと思われます。1月にはPTA役員さんに協力をいただき不審者侵入訓練を行いました。

訓練はこれでよし、ということはありません。そこから出た課題をもとに計画を見直すこと、実際に動いて判明した課題を改善していくことを繰り返しながら安心安全な学校をめざしていきます。

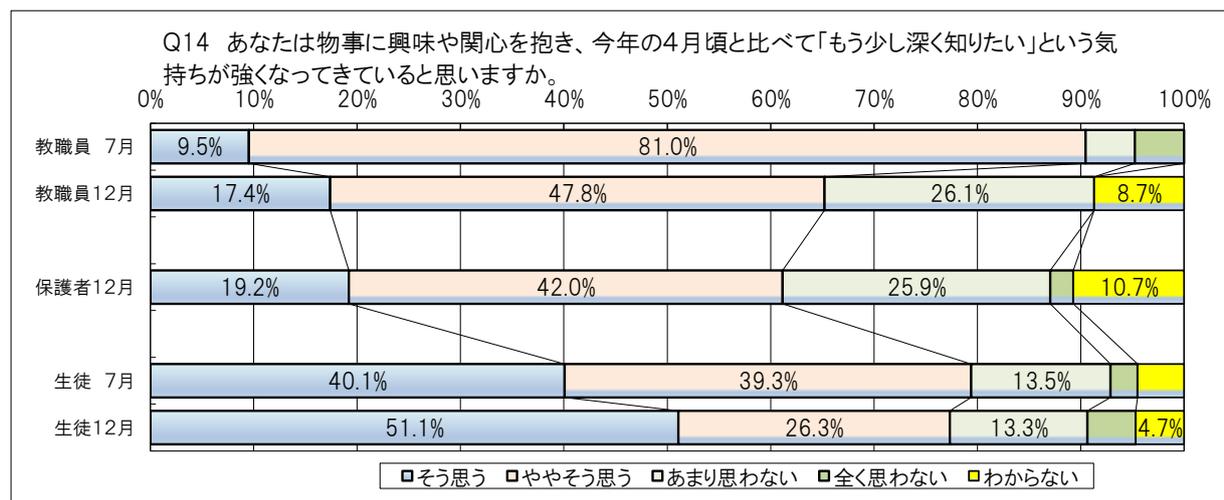


教師への生徒の評価が向上している反面、あまり思わない、全く思わない生徒の割合は増加しています。教職員の意識としては、もっと理解したいという思いが強くなった結果であると考えられます。



授業の多くの場面でタブレット端末が学習道具の一つとして使われるようになり、生活や学習が便利になったと感じられているようです。

今後もICT機器の活用方法を研究し、より楽しくわかりやすい授業になるようにしていきます。生徒には、機器の正しい使い方や情報を正しく活用できる力をつけていきます。



教職員は生徒が興味や関心がもち生徒自らが課題を追究できるような授業を旨として研究を推進しています。課題に対して自分が何をすればよいのかを自己決定し、個人追究をしたり仲間と関わったりすることで更に知りたいという思いをもてるようにしていきます。